

だけど、死を目の前にすると、私がして来たことは何の価値があったんだろう。もし死後の世界があるなら、どんな意味を持つんだろう。」

結論を言うと、この方はクリスチャンになりました。そして聖書、特に死後の世界について、天国について、一生懸命学ぶようになったんですね。なぜ、死後の世界のことを一生懸命学ぶようになったのか。

聖書の最後 **黙示録**の今日見るところには、壊れない建物について書いてあります。朽ちていかない国。古びていかない決して過ぎ去らない世界が、やがてキリストによってもたらされる。それは、今私たちが見ている世界とは全くの別世界。今私たちが見ている宇宙や、私たちが住んでいる地球とは全くの別世界がキリストによって造られる。その世界を“**新しい天と新しい地**”と言います。これが人類歴史が最後に行き着くゴールですが、そこに行くことができるのは、キリストを信じている人だけなんです。

今日は**ざっくり黙示録シリーズ 38**ですが、調べたら第1回目は2019年4月です。ということは、かれこれ3年半ですよ。いやあ、よう続いた…。もうすぐ終わりで、なんか寂しい感じもするんですけど、1回目からずーっと来ている方って、この集会のメンバーだけだと思うんですね。ほとんどの方は歯抜けだったり、今日初めての方もおられるので、直前のことを少し復習します。

時代がずっと未来に向かって流れていますが、ある時**携挙**があり、クリスチャンがみな天に引き上げられます。それからしばらくして、7年間の恐るべき時代が続きますが、これが**艱難時代**です。艱難時代はキリストの**地上再臨**で終わります。艱難時代を終わらせるためにキリストが地上再臨する、と言ってもいいでしょう。しかし、地上再臨のもう一つの目的はキリストが直接統治する**千年王国**で、キリストが王として君臨することです。艱難時代を終わらせるだけでなく、キリストが直接統治する時代。これを千年王国と言います。

ユダヤ人たちは歴史を2つに分けました。“この世”と“来るべき世”です。これはキリストも仰っています。“来るべき世”は、まだ来てないけど確実に来る世界。キリストが直接統治する世界。“この世”は、キリストが直接統治していない世界です。だから混乱や不幸・戦争があり、様々な問題があるのですが、そういうものを終わらせる。

そして千年王国が来るのですが、これ1000年で終わるんです。無限にこの期間が続くのではない。千年王国の最後にもう一度戦争があります。その後**白い御座の裁き**があり、ここで神に反逆した者たちは**ゲヘナ**（地獄）に行きます。**白い御座**に行かなかった（キリストを信じた）人たちはどうなるのか。

ここから無限大・永遠の世界が始まるのですが、これが**新天新地**です。新天新地には新しいものが3つあります。“新しい天”と“新しい地”と“新しいエルサレム”。この3つがどんな関係にあるのか。どんな世界なのか。これは、旧約聖書のどこを捜しても出て来ません。旧約時代には秘められた秘密なんです。新約時代に**黙示録**で、初めて明確にされてくることなんですね。

黙示録 21 章

1 また私（ヨハネ）は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地（新共同訳聖書；最初の天と最初の地）は過ぎ去り、もはや海もない。

以前の天と以前の地とは全く別物の新しい天と新しい地が創造される。
最初の天と最初の地は過ぎ去った。今私たちが住んでいるのは最初の天と最初の地。
私たちが見ているのは古い宇宙と古い地球。それとは全く別のものを造るんですね。

これは、古い天と古い地をリフォームして、新しい天と新しい地にするんじゃないんです。
古い家のペンキを塗り直して新しい家という場合もあるけど、それ新しくない。
以前の天と以前の地は過ぎ去り、だから別もんです。今ある物を素材に使い、それをリフォームして別の物に造り替えたというのではない。造り替えたのではなく、全く別の新しい天と新しい地を造った。

もはや海もない。これ、ある方にとっては残念なことですよ。サーファーたちは「えっ！新天新地、サーフィンできひん！」磯釣り好きな人とか潮干狩り好きな人・海水浴好きな人は「そんなん…」と思うかもしれませんが、海に代わるものがあるんです。**いのちの水の川**。
これが海の代わりを十分に果たします。神は今まであったものをなくした場合、それを上回るものを必ず準備なさるのです。海よりはるかに素晴らしい**いのちの水の川**。

♪間もなく彼方の～♪という、いのちの水の川についての子供の讚美歌がありますが、実はこの讚美歌のメロディーは、♪たんたんたぬきの○○玉は～♪だというんですね、やめてくれやと。元々讚美歌にそういう下ネタの歌詞を付けたという、ムチャクチャなことするわけですね。

この新天新地に、**2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。**

新しいエルサレムは天から降って来た。天の中でも、神のみもとから降って来た。
ということは、新しいエルサレムは新しく造られたんじゃないんです。
新しい天と新しい地は新しく造られたものですが、新しいエルサレムは、新しい天地に関係なしに神のみもとにあった場所。別名**至聖所**です。これは神が王座を据えておられる所なんですね。

なぜ新しいエルサレムが至聖所なのか。寸法を見たら立方体なんですね。
12000 スタディオン×12000 スタディオン×12000 スタディオン。
旧約聖書の至聖所（神殿の一番奥の間）は立方体なので、これは至聖所だろうということです。

さて、新しい天は何が新しくされたのか。
天はヘブライ語でシャマイーム。複数形で3つあります。第1の天・第2の天・第3の天。
第1の天は空。鳥が飛んでいる空間。**第2の天**は宇宙。天体が存在する空間。
第3の天はパラダイス。神の王座がある場所。神がおられる所。

以前の天は過ぎ去ったというのは、第1の天（空）と第2の天（宇宙）が過ぎ去った。

つまり、今私たちが見ている空間や宇宙空間が去って、第3の天が新しくされた地上に降りて来て合体する、というのが新天新地の特徴です。これが外観。

これから中身について、何回かに分けてお話ししていきます。この外観の後、二人の証言が出て来ます。一人は御使い。もう一人はイエス・キリストご自身。私はそう信じています。御使いが2つのことを言います。そして、キリストは3つのことを言うんですね。

〈御使いが言った1つ目のこと〉

3 私はまた、大きな声が御座から出て、こういうのを聞いた。

「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。」

大きな声が御座から出るというのは21回目で、これで全部終わります。

御座から大きな声を出すのは御使いです。御使いが21回宣言するのですが、そのラストがここ。

「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。」

神の幕屋。幕屋はテントで、ギリシア語でスケーネ。

神は人々とともに住み。これはスケーノという言葉で、幕屋から派生した動詞です。

幕屋は神が臨在していた場所ですが、神がそこにテントを張るように、神は人の上にテントを張る。神自らが人と共に住む。神がまるで人の住み家のように、その人を臨在で包み込んでしまう。

神と人との間にもはや何の隔たりもなく、新天新地の住民たちはみな神の前に心安らかに、障壁が全くない状態で同じ時間・空間を楽しむ。これを聞いて「ふ～ん。そんで？」と。

「天国って、ただ単に長～く生きるんか。」そうじゃなくて、神と共に親しく生きる世界なんです。

話変わりますが、皆さん、安倍元総理の国葬ご覧になりましたか。火曜日。

さすがに献花は3時間もあったから、それをひたすら見ることはしなかったけど、菅元総理の、あの友人代表の弔辞ですよ。もうね、7-8回聞きました。昨日も寝る前に聞いて、涙止まらなくなっただけ。役人が書いたものじゃない。頭で書いた文章は人の頭には届くけど、心に届きませんよ。でも、心で書いた文章って心に届きますね。

菅さんだって総理経験者なのに、「総理」と呼び掛けますよね。

戦後最長7年7か月の第二次安倍内閣の時の女房役・官房長官が菅さんですよ。

第一次安倍政権の時、安倍さんは持病の潰瘍性大腸炎という難病が悪化したために、任期を全うせずに途中で投げ出す結果になりました。途中降板。その事が負い目だったので、2度目の総裁選挙の時にどうしても踏ん切りがつかない。立候補できない。

「その時 銀座の焼鳥屋に行って、3時間説得して、3時間後によく首を縦に振ってくれた。私がそれを強く勧めることができたのは、この人物を首相にしなければならないという強い使命感があったから。自分の政治家生命を振り返った時、菅義偉（すが よしひで）が達成した最大のことは彼を説得したことだ」と言い切っていましたね。

冒頭で、「事件が起こった時、とにかく一命を取り留めてほしいと思って現場に飛んだけど、その時もう一度あなたと同じ空間を生き、もう一度あなたと同じ空気を共にしたいという思いでいっぱいでした。」

苦楽を共にした同志が、先に死んでしまった同志に向かって「なぜなんだ?!」という思いと同時に、「話し足りなかった。もっと語りたかった。もっとあなたと一緒に過ごしたかった」という、男が男に惚れ込んでいる言葉のように思いましたね。

新しい天と地に入っていく人たちの中に、この地上でキリストと共に歩んで、苦楽を共にした人たちがたくさんいると思います。彼らは信仰に立つがゆえに多くの犠牲を払ったり、たくさんの理不尽な扱いを受けたかもしれない。でもその分、何とも言えない絆の強さがあったと思いますね。

そうでなくても、話した時に時が経つのを忘れさせる人っているじゃないですか。彼と話しているとなんか勇気が出て来る。なんか元気になる。一緒にいると、こんな人になりたいという憧れの気持ちが出て来て、こんな人に成長したいという渇きが出て来て「えっ、もうこんな時間！」別れるのが何となく切なくなってくるような。異性間でもあり得ると思うんですよね。異性間にも成立する友情というか。この人格から放射されて来るものをずっと浴びていたいという。

「警咳（けいがい）に接する」という言葉がありますね。警咳は咳払いのことです。自分が尊敬する人の咳払いの息がちょっと掛かるくらい親しかった、ということに光栄に思っているというね。コロナが蔓延してなかったからそんな諺が成立したかも。今なら「あ！マスクしてない！」とかなるかもしれませんが。

「私の前で咳払いしてくれたんですよ」と、そんなことも思い出になって嬉しくなるような。

そんな畏友（いゆう）/畏れるべき友だち、お持ちですか。私は男性にも女性にも数人ずついます。それはもう、私の人生の中に与えられた最高の宝物やと思うてます。その憧れるような人格って結局何かというと、その人たちがキリストに似てるということなんですよ。

原型であるキリストがまるでテントのように私の上に降りて来て、テントで取り囲みたいに。キリストと一緒に語り合い、笑い合い、キリストの警咳に接し、キリストの賢さ・寛容・勇敢・ユーモア・優しさ・思いやり・知恵…。キリストに質問したいこと、いくつかありますよ。聖書の質問と人生の質問ありますよ。どんな風に答えてくださるのかなと。謎であった分、分かった時、それはもう感動するんじゃないかなと思うんですけど。そのような時代・世界。神ご自身が彼らと共におられる、というのが新天新地の日常。

〈御使いが言った2つ目のこと〉

4a 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってください。

これは、新天新地でも涙を流すことが起こる、と言っているのではありません。涙って全部悪いもんじゃないと思うんですよね。嬉し涙とか感動の涙とか、そんな涙は別に拭ってもらわなくていいじゃないですか。「いや、今感動してるからいいです」みたいなね。そんな肯定的な涙以外のことで、一般的に涙の原因になることってどんな事だろうか。

4b もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。

涙の原因の筆頭に死が挙げられてるんですね。

死と向き合う時、どんな屈強な人でも、人知れず泣くことがあるんじゃないですか。もし皆さんが非常に深刻な病気で死の宣告を受けた経験があるなら、その時の衝撃を忘れることはできないと思うんですよね。死というものと向き合った時に出て来る涙。

2番目は悲しみ。悲しみは大切なものを喪失した時に生まれる感情だと、ある本に書いてました。喪失は名誉、子供や愛する妻、あるいは家や財産かもしれない。将来を失うこともあるかもしれません。何にしても自分にとって一番大事だと思っているものを失った時、悲しみが出て来ます。その悲しみが涙を流させるんですよね。

3番目は叫び声。別訳では呻き。恐怖から生まれる感情の声です。色々恐ろしいものがありますね。戦争や人間関係。酷い虐待を受けて来た人たちは、その人の名前を聞くだけで体が固まってしまう。それらが人知れず涙を流させてしまうんですね。

最後は苦しみ。肉体の苦しみ。精神の苦しみ。人間関係や子育ての苦しみ。

ここに書いてある死・悲しみ・叫び・苦しみはどこから生じたのか。

創世記3章のアダムが善悪の知識の木の実を取って食べた、あそこからまず死が入り、悲しみ・叫び・苦しみが創世記に全部出て来ます。

千年王国にも、このアダムの罪の影響はあったんです。千年王国にも死があったし、反逆があったし、やはり苦しみがあったんですね。しかし、涙をことごとくぬぐい取ってくださる。新天新地に入ったら、そういうアダム由来のもの、罪の呪いが全くどこにも見当たらない。呪われるもの・呪われていたものがどこにも見当たらない。涙が出る必要はもうなくなった。「それが遂に実現したんだぞ！」という御使いの喜びの宣言です。

5すると、御座に座っておられる方（キリスト）が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

〈キリストの言葉①〉

「新しくする」はギリシア語でポイエオー。ここでは「する」と訳されていますが「建てる・建設する」という意味があるんですね。なので「わたしはすべてを新しく建設する。」

何を建設されたのでしょうか。新しい天と新しい地です。

どんなものでも新しく造った瞬間から古びますが、この方が新しく造ったものは日々、もっと新しく、もっともっと新しく。わたしはすべてを新しくする。

〈キリストの言葉②〉

その上で、また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

これが意味するのは保証なんですね。

保険会社の方に伺うと、保険の世界では“ほしょう”に3つの意味があるそうです。

①補償；だれかに損害を与えた場合、金銭で償うこと。代表的なものは自動車保険。相手の車に追突してしまった。損害を与えてしまった。補償するんです。

②**保障**；何らかの災難が起こった時、そのダメージから守る。

国家安全保障の場合は、外国からの侵略に対して守る。保険では死亡保険・がん保険・介護保険など。そういう事になってしまった時、その後の生活を守ってあげるという保障。

③**保証**；安心を与えるための保証。家電製品を買った時、保証書付いてますね。あの保証。

相手に安心感を与えて、大丈夫だと請け負う保証。年金。

別に、ここで保険のことをレクチャーする必要もないんですけど。

昔若かりし頃、今はどうか分かりませんが、不動産で賃貸の部屋を借りる時、保証金を求められたんですね。保証金とは借り手が貸し手に前もって払うお金です。そのお金は貸し手を安心させるためのお金で、つまり「ちゃんと使います。ちゃんと家賃払います。万一家賃滞納したら、その保証金から取ってもらって結構です。出て行く時は現状維持します。万一金が無くなったら、保証金で補填してもらって結構です。そこから使って、やってもらって結構です」ということで。

要するに、相手に安心を与えるためのものを**保証**というんです。

「この商品、大丈夫かあ？でも、保証書付いとるから大丈夫や。万一壊れても、タダで交換してくれるわ。」

ここでは「見よ、わたしはすべてを新しくする」とキリストが宣言した、その宣言を保証するものがこれなんです。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」

これ、人間がやったらね、「おまえ、アホか」という話になるんですよ。

例えば、貸主が借り手に「保証金を。」「いや大丈夫です。よく聞きなさい。私が住むのだから」って、そんなこと言ってもね、それ信用できひんから、先に保証金取るわけですよ。

ところがここでは「書け」と。これを言ったのは神だから信用できるという。

つまり、“神がご自分に掛けて誓っている。ご自分の名前で、大丈夫だ。真実だ。信頼できると言っているの、どんな保証よりも大丈夫なんだ”ということなんです。

これはね、神だけがこれを言って保証になるんです。人がやったら保証にならない。

神だけが、そのことを言うことができるんですね。

〈キリストの言葉③〉

6 また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。」

事は成就した。何が成就したんでしょう。神の人類救済計画が遂に完成したということです。

神は人類を救済するために、壮大なプロジェクトを展開されました。それが旧新約聖書ですよ。

人が罪を犯したことによって台無しにしてしまった人間の生涯・世界。

更に人間には、キリストを与えることによって最終的に罪のない体にまで変えてしまう**(栄化)**。

それだけでなく、罪の結果、世界も汚(よご)れたんです。人が罪犯した結果、その影響は人類にのみ及んだのではなく、自然界全部が呻くようになった。苦しんでいる。虚無に服している。

これは、自然界の統治者であったはずの人間が失格者になったために、その下にいた全被造物が苦しんでいるのですが、**新天新地**では、すべての自然界が新しくされているんです。

なので「事は成就した。」人も環境もすべてのものが全く新しくされるという、この救済計画が遂に完成しました。

わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。すべてのすべてである。新天新地は、神がすべてのすべてであることを学ぶところです。

7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

勝利を得る者とはキリストを信じるすべての人です。「いやあ、クリスチャンになってんけど、よう失敗しますねん。よう罪を犯しますねん。あきませんねん。」そうじゃないんです。キリストを信じている人が勝利者です。ヨハネの手紙に書いてあるんですよ。

キリストを信じている人は、これらのもの（**新しい天と新しい地と新しいエルサレム**）を相続する。**新しいエルサレム**は都市です。

次回詳しく言いますが、これは実際の都市で、新しい天と新しい地の都。それが新しいエルサレム。この新しいエルサレムにはだれが入るのか。

ヘブル人への手紙 12 章

22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、

生ける神の都である天上のエルサレムにはだれが住んでいるのか。そのリストです。不思議なことにまず、無数の御使いたちの喜びの集い。新しいエルサレムには御使いが住んでいる。聖書の中で名前がはっきり分かる御使いは2人だけです。ミカエルとガブリエル。他の御使いは全部名前が出て来ません。“もう一人の御使い”とか“別の御使い”という言い方。その無数の御使いが天上のエルサレムにいます。彼らは喜んでいます。

23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、

長子たちの教会。これはクリスチャンたちのこと。

天に登録されている教会とは、本当のクリスチャンたちだけで構成されている教会のことです。

この地上には色々な教会あるじゃないですか。でもね、建物で選ばないでください。ね。

建物はめっちゃくちゃ教会らしいけど、中身は聖書と何の関係もないという所がたくさんあります。

言うか言うまいか、さっきから悶々としてるんですが。今でもやってるのか『100分 de 名著』というNHKの番組があつて。今でもやってますか？分からない。

25分ずつの4回シリーズで、古今東西の色々な古典名著を解き明かすという。

伊集院光さんが司会。あの人、地頭いいと思うんですよ。地頭が。感想がいつも気が利いてるんですよ。伊集院って、全然イメージが合わないじゃないですか。そこがまた面白いですよ。

光源氏と伊集院くっつけて、えっ?!と。そんな笑いを取ってるわけですね。

ある時『100分 de 名著 旧約聖書』があつたので、「だれが解説するんやろ?!」

もうドキドキしながら。

ノンクリスチャンが多いこの日本で、視聴率の高いこの番組で、100分で旧約聖書バーンと話してくれたらどんなにええか！

もう1回目から「ええ〜っ?!」と。千葉大学の名誉教授の・・・という人ですよ。日比谷高校から東大に行ってストラスブール大学。ここはヨーロッパの知性の最高峰と言われていて、ノーベル賞19人出してるんです。フィールズ賞も2人出てる。ヨーロッパ屈指の、知性の最高峰と言われている大学の、神学部のプロテスタント学科。そこで博士号もらって、帰って来て千葉大学の文学部教授をやって、ということなんですが、ハッキリとこう言っていました。

「実はね、神というのは人間の創作物なんですよ。神はユダヤ人が発明したものなんですよ。バビロン捕囚の時、困ったユダヤ人たちが、民族共同体がバラバラにならないように神というものを作ったんですよ。」

そんな時に伊集院さんが「ええっ!! そうなんですかっ?!」「そうなんですよ。」

私、そんな時もう画面の前で「ちょ、待て!こらあ!!」もうねえ。

それで神学博士…。ということで、色んな牧師たちを教えているんですね。

この人、クリスチャンじゃないです。未信者です。未信者の方でも、聖書の外側を色々調理して勉強することはできます。だけど、いのちが無い。

残念なことに、日本の教会の中に聖書を額面通りに、字義的に信じていない牧師・救われていない宣教師・神学者・クリスチャンではない聖書教師、たくさんいます。

でも、大きな教会堂でパイプオルガンがあって、ガウンを着てやってたら、なんだか「ありがたや」みたいに思うんですけど。

地上ではそれも教会のうちにカウントされていますが、聖書が言う“教会”の本当の意味は“神によって呼び出された人たちの共同体”のことなんです。それは天に登録されている。

この地上では教会の中に、本当のクリスチャンと、クリスチャンではないけどクリスチャンと思っ込んでいる偽クリスチャンがごちゃ混ぜになってます。

信じていなくても“洗礼を受けたからクリスチャン”と思っ込んで、その教会の構成員になっていますが、それは救われていません。キリストを信じていない人が洗礼を受けてもね、罪人が濡れた罪人になっただけ。意味がないんですよ。

でも、ここでは天に登録されている長子たちの教会。

これ、長子たちの教会という言葉が不思議と思いませんか。長子は長男のことです。

長男がなんで複数形になるん? 12人兄弟でも長子は1人ですよ。双子で生まれても長子は1人です。でもここでは長子たち。変な言葉遣いじゃないですか、長子たちって。

クリスチャンたちは、キリストが携挙してくださる時に栄光の姿に復活します。これは人類史上、キリストに次いで初めてのことなので“御霊の初穂をいただく人たち”と書いてあるんですね。

初めて栄光の姿に変えられた人たち、初めての新しい体に生まれた人たち、という意味で長子たち。クリスチャン1人じゃないから長子たちなんですよ。それに与るのは、本当に救われているクリスチャンたちだけです。

この新しいエルサレム・天のエルサレムには、御使いたちと天に登録されているクリスチャンたちがいます。

すべての人のさばき主である神。これは三位一体の神です。

三位一体の神が新しいエルサレムに臨在しておられます。新しいエルサレムに三位一体の神がおられないなら意味がない。新しいエルサレムの最大の魅力は、その都に三位一体の神がおられるということなんですね。

完全な者とされた義人たちの霊。これは旧約時代の聖徒たちのことです。

だから、新しいエルサレムにはアブラハム・ダビデ・エリヤなどの旧約時代の人たちもいる。

そしてここには書かれていませんが、艱難時代に救われた人、及び千年王国時代にキリストの側に立った人たちも、もちろん入ることでしょう。そういう人たちが相続します。

7 勝利を得る者（信者）は、これらのもの（新天新地・新エルサレム）を相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。素晴らしい。

8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中（ゲヘナ・地獄）にある。これが第二の死である。

火と硫黄の燃える池の中（ゲヘナ・地獄）に入るのは、クリスチャンになった後も臆病な者。

そうじゃない。ここで言ってるのは、キリストを受け入れなかった人たちのことです。

人間の性質として、やっぱり臆病な面はあるんじゃないですかね。クリスチャンになっても臆病さがありますよ。でも神を信頼する人は、自分の中に臆病さが出て来て決断が鈍る時に「神様、この臆病者を助けてください。強めてください。勇気を与えてください。何とかしてください」と祈るんです。ここの臆病な者は、臆病を理由にキリストに背を向けて、キリストを拒む人のことです。このリストで、例えばすべて偽りを言う者。嘘ついたことないですか。「ク、クリスチャンになってからもある…。」そんな意味じゃないです。キリストを拒んだ人たちのことを言ってる。

では、新天新地に入ってしまったら関係ない過去の人たちのことを、なぜここで言っているのか。

この時代に至る前に**黙示録**を読むすべての人に呼び掛けているんですね。

6 わたしは渇く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。

わたしは渇く者にいのちの水を与える。その渇きを止める。

渇く者への呼びかけは**ヨハネの福音書**の中に3回出て来ます。イエスは3種類の人たちに向かって、「渇いているなら、わたしのところに来て飲みなさい」と呼びかけるんですね。

最初はサマリアの女。彼女に「わたしが与える水を飲む者は、決して渇くことはありません」と前置きをしました。

2番目はパンの奇跡で養われた群衆。「これからも養ってください」と言う人たちに向かって、「わたしを信じる者は、どんなときにも渇くことがない。」

3番目は仮庵の祭りの最終日に群衆に向けて、「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」

「渴いている人よ、わたしのもとに来なさい」という呼びかけはいつでも、弟子にではなくノンクリスチャンに語られる言葉なんです。

まだキリストを信じていない人に、「渴いている人は来なさい」と招きをなさるんですね。

つまりキリストは、**黙示録**を読むのはクリスチャンたちだけではないことをご存知なんです。

例えば、この**ざっくり黙示録**を聞いてくださっている方の半分ほどはノンクリスチャンですよ。

黙示録を聞いて「なるほど、神のことばは間違いない」と思っているけど、まだクリスチャンではない方がたくさんおられるに違いない。

その人たちに向かって、「わたしは渴く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。火と硫黄の燃える池に行ってほしくない。人類の未来の選択肢は2つしかない。新天新地・新エルサレムという究極の祝福か、燃える池という究極の呪いか。わたしがあなたがたに与えたいのは、究極の祝福である。わたしは渴く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。」

いのちの水はキリストが与えてくださる聖霊・永遠のいのち。

これをただで与えるというのは、価値がないからただで与えるんじゃないんです。

“高い・高価”は Expensive ですね。“値がつけられないほど高い・高価”は Priceless。

Priceless は Price (高い価格) + Less (無い)。価格が無い。お金で値付けできないほど高価。

お金で買うことができないほど貴重・尊いもの。

お金では絶対に手に入らないものが、なぜただで手に入るんだろう。

キリストがご自分のいのちで、私たちの代わりに支払ってくださったからです。

そしてクリスチャンだけでなく、まだ信じていないノンクリスチャンの方々に、「ぜひ信じてください。渴いている人はわたしのところに来なさい」という招きなんです。

黙示録が書かれた目的は人が救われるためです。そして、救われた人を励ますためです。

いかがでしょうか。今まで聞いてきて「聖書は本当に真実だな」と思ったなら、ぜひ決心して、キリストをご自分の救い主として受け入れてください。心からお勧めします。

^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^

*引用；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017